

2023 年度 アクティブ・ステューデント応援奨学金 活動報告書

国際経営学部 国際経営学科 2 期生
秋間 龍之介

はじめに

私は、2024 年 1 月よりアクティブ・ステューデント応援奨学金をいただき「『GLOMAC 留学サイクル』形成のためのプラットフォーム作りーYouTube 動画制作・投稿」を行った。私が考える「GLOMAC 留学サイクル」というのは、異文化体験の楽しさを動画などのかたちで共有することでそれらを提供する機関にもそれを見た視聴者にもいい影響が生まれるという好循環サイクルのことである。留学や異文化体験の楽しさを動画で見た視聴者は留学に興味を持ち、自分もいつか留学に行ったり異文化体験ができる環境に身を置きたいと考えたりするようになる。そこで GLOMAC のような留学プログラムが豊富で授業も多言語で行われる学部は日本のみならず海外の高校生が入学を希望するようになり、入学してからも様々な異文化体験に挑戦するようになる。それをまた動画にすることで同様の流れが繰り返され、すべてのステークホルダーに好循環が生まれるという流れである。2024 年 1 月に私自身の YouTube チャンネル、Roo Akima を開設し動画を投稿しており（リンク：

<https://www.youtube.com/@RooAkima-himself>）、そこでの動画の投稿を通じて「GLOMAC 留学サイクル」の準備をするというものだ。本報告書では、予定していたタイムラインとそれを変更せざるを得なくなった 3 つの誤算、それを踏まえた現状の報告と将来の展望を綴った。

本来のタイムラインと 3 つの「誤算」

チャンネルと動画のアイデア自体は以前から構想として持っていたが、計画としてまとめはじめたのは、2023 年の 9 月ごろからである。その時点では、1 か月 3 本の動画投稿と 3 月までにチャンネル登録者数 1 万人を目指していたが、上にも述べたように大きな「誤算」があった。人生で一度も動画編集をしたことがなかった私は、10 分程の動画を投稿するのにどの程度の時間と労力がかかるかわかっておらず、「こうなっていたい」という理想からこれらの目標を立てたため本来のタイムラインから大きくそれる形となってしまった。同奨学金を受給いただいた 2024 年 1 月に初投稿をもってチャンネル開設したのだが、そこから 1 か月 3 本ずつ投稿していったとしたら現在 8 月の時点で 20 以上の動画が投稿されている計算になるが 4 本しか投稿できていないのが現状である。

このように描いた目標に到底及んでいない現実には、この活動を通しての学びに直結する 3 つの「誤算」が関係している。なお、前提として「誤算」は「言い訳」ではない。大変なことは覚悟のうえで臨んだし、大変だからと言って「やめたい」という思いにはなっていないということだ。むしろ、いかに克服できるかを模索しその経緯を楽しんでやっている。その「誤算」の 1 つ目は、企画・撮影・出演・演出・台本・監督の作業を 1 人で行う大変さである。つまり、いわゆるテレビ局が複数人で行う作業を 1 人で行わなければならないという点である。ある 1 つの企画を撮るとき、いくつかのシーンに分けて行う。そのため、そのシーンに応じて出演してもらう人や場所を抑えなければならないのはもちろん、その関係者に説明する必要がある。出演し協力してもらう人には何を意図したどんな動画がとりたくてその動画内でどのようにふるまってほしいかを伝えなくてはならない。例えば、私が 24 時間かけて韓国語を言語学習アプリのみでどれだけ勉強できるか挑戦する企画では、韓国人の友達に挑戦前後に韓国語で話しかけてもらい成長過程を見せるシーンを撮影したが、その際も本人たちにはその意図を説明したうえで会話の流れやどんなことを話しかけてもらうかなどの指示はせずに協力してもらった。場所を抑える場合も同様の手続きが必要で、例えば、自分含む複数人が中央大学のキャンパスで恐竜のコスチュームを着て撮影した動画の際にはあらかじめ学生生活課や庶務課、国際経営学部事務室に事前に連絡をして行った。また事前にこんな映像がとりたいと思って撮影に挑むがドラマや映画ではなく実際に起こったことを動画とするので台本のようなものを完璧に準備はできない。そのため、その恐竜の動画も本来は「海外のお菓子を目隠しした状態で食べて、予想をあてることができれば恐竜のコスチュームを着てもらう」というハロウィンと重ねた内容だった。しかし、1 人当たりの時間が長くなってしまい目指していた 20 人の恐竜を獲得するのにものすごく時間がかかってしまうと判断し、お菓子を景品に、恐竜たちでレースをしてそのレースへの参加者を募るという形をとった。このような大変さに加え、エンタメ性が足りないと感じる部分に関してはナレーションをしたり、追加で撮影したりしなくてはならない。

2 点目の「誤算」は編集の大変さである。関連ソフトとの互換性から Adobe Premiere Pro を使っているが全く編集経験がなかった私にとってはソフトを使って編集すること自体も困難であった。そこで、まず、「編集できる環境」作るところから始めた。2023 年 10 月よりソフトを導入し、ソフト内のチュートリアルや関連の説明記事、YouTube 動画をみながらひたすらに勉強した。必要な機材（ノートパソコン、デスクトップやヘッドホン、マイクやマウス、カメラ、三脚、記録機器など）も整備したり必要なものは新たに購入したりした。その「編集できる」環境を作ることができたが、データを記録していたノートパソコンごと盗まれるなど波乱もあった（写真 1、参照）。留学先であったカリフォルニア大学デービス校での撮影を行うためサンフランシスコを訪れているときの時に盗難にあったのだ。編集ソフトの性質上、クラウドに保存することはできなかったため、編集途中の動画のデータも含めて失われてしまった。素材自体はクラウドにて保存していたため、何とか復元できたが遅延の大きな原因になってしまった。代用のためのデスクトップも修理の必要があったからだ。さらに、編集のむずかしさの観点では実際に撮った素材をつなぎ合わせるだけでなく起承転結にまとめる必要がある。特に「起」に関しては、英語話者向け動画に多く見られる「Hook」を用意する必要があるなど視聴者を飽きさせない工夫が必要である。最後に同じ動画でもタイトルやサムネイルのでき次第で再生回数に影響するため、より端的で「見たい」と思わせるようなものを準備する必要がある。



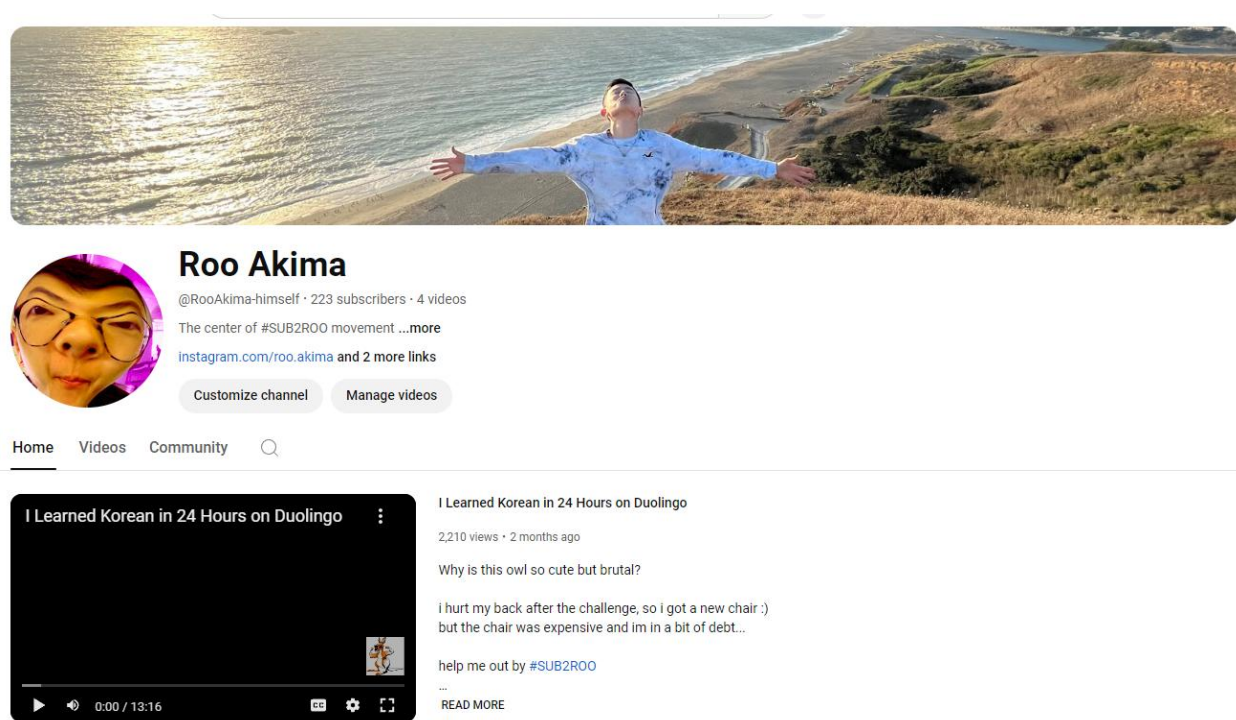
（写真 1：割られた車の窓。ノートパソコンのみ盗まれ、警察に届け出たものの見つからなかった。）

3 点目は自己マネジメントの問題である。今日撮影しようも、明日しても、今日編集しても、しなくても、すべて自己責任であるというところだ。特に自分の場合は、ほかのことを優先して編集作業から逃避してしまうことが多かった。締め切りなども自分で設定したものであるし、クオリティも自分の満足という指標しか基準がないため「まだ不十分だからもう 1 週間かけよう」といった具合に編集期間が長引いてしまうのだ。2 週間に 1, 2 本のペースで投稿するのが当初の目標だったが、上の 2 つの「誤算」によりそのペース感も維持できなくなってしまった。またそのような負のサイクルで、メンタル的にも難しい事態になってしまった。

現状の報告

上記のような「誤算」もあったなか、様々な学びもあった。現状としては登録者 223 人で、投稿した動画は 4 本である。収益化の 1 つのマイルストーンである YouTube Partner Program（以下、YPP）加入条件の進捗としては、あと登録者を 277 人、再生時間が 2834 時間という状況である（写真 2 参照）このプログラムに参加するのが次なる目標であるがそれに関して詳しくは「今後の展望」で述べる。投稿した動画のなかでも 24 時間で韓国語を言語学習アプリを使ってどこまで学習できるか検証した動画は 3 本目ながら 2000 回以上の再生回数を記録した。自分が目指している数字からはまだ遠いが、この動画と他の動画を比較しながらわかったことも多い。この動画の系統として、他と違うのは 2 つの要素がある。「私自身が」「挑戦」する企画であったということだ。小山

（2023）も視聴者は自分が経験できないことをやっている人に興味をもってその動画を見ると述べているが、そこに「私」というキャラクターを毎回登場させ挑むことで視聴者との距離感を狭めることができる。動画を視聴した複数の人からも、もっと自分にスポットライトをあてる企画をするべきとの意見をもらっていることから「私が何かに挑戦する」といったような内容の企画を増やしていきたい。



（写真 2：YouTube チャンネルページ）

また、数値的な裏付けはないものの、今までの活動期間を通じて感じていることもある。編集にも慣れてきて 1 か月に 1 本のペースで編集を終えられるようになってきたことや、アイデアの発想も企画のブレインストーミングもテンポよくできるようになったという実感である。編集の作業への理解から、より効率的に撮影することができるようになってきたとも感じている。

今後の展望

直近の目標としては今年中に YPP への加入すること、2 年後には登録者数 10 万人を達成することを掲げて動画を投稿し続けていきたい。「現状の報告」でも述べたように「私が何かに挑戦する」企画を続けていきながら、3 つの「誤算」から得た学びを反映して新しいことをやっていきたい。それは TikTok および YouTube Shorts のような短い動画を毎日投稿することだ。この狙いは、編集に慣れたり、メンタル的にも「編集すること」へのハードルを下げる目的がある。もちろんその再生回数が伸びれば、より自分のチャンネルに人が流れるようになり、登録

者が増える可能性があるし、YPP 加入に関してもショート動画の再生回数が一定以上であれば加入条件に代えることができるので力を入れたい。また、ショート動画を作れば YouTube のみならず TikTok、Instagram Reel など複数のメディアに乗せることができ汎用性も高く効果が大きいとも思っている。同時に新しい試みとして Podcast にも関心がある。音声メディアのみの編集作業であるため作業の負荷は低いが Spotify や Amazon Music、Apple Music など異なるアウトレットを形成できる点でのメリットが大きい。また、自分がマイクに向かって話すことになれる練習になる点や自分のバックグラウンドを話すきっかけになるという点だ。

メインの動画に関しても再生回数をさらに伸ばしたいということや、リテンション（動画を最後まで見ている人の割合）を上げたいということなど改善していきたい点は多くあるが、何よりもまずはペースを上げて投稿していきたい。具体的には、今年中に 1 か月に 1-2 本をあげられる形を確立する。1 週目に企画・撮影を行い、2 週目前半にファイルのレビュー、2 週目後半と 3 週目で編集作業を行い、4 週目で投稿準備（サムネイルの撮影・編集、タイトルの最終編集、他メディアでの拡散準備など）を行うというフローを考えている。慣れてきたら、1 週目と 4 週目を同時進行で行うつもりだ。このようにして早いペースで定期的に動画を投稿できるようになれば、各種ブランドへのスポンサーオファーや他クリエイターとのコラボなどの計画が実行しやすくなる。

最後に、ショート動画の毎日投稿とメイン動画の投稿の安定が取れ始めたら、少しずつ外部にも協力を仰ぎスケールアップしていきたいと考えている。YPP に入れていなくとも、YouTube のスポンサーを探すことやその人たちに連絡をとること自体は可能であるから、関連性のある企業やブランドに動画のアイデアを含む内容でピッチしていくこともやっていきたい。

おわりに

この奨学金により長らく自分が果たしたかった「異文化体験の素晴らしさを共有すること」の実現に大きく近づけたと感じている。学部関係者の皆様には感謝の意を申し上げたい。目標としていたところには到底及べていないが、その目標がどの位置にあるのか、どうすれば到達できるのか、この活動期間を終えてより明確に見えるようになったと感じる。3 つの「誤算」に気が付いたのも、それを踏まえて現状を整理できたのも、さらにはそこから希望をもって今後を展望できていることも、挑戦の後押しがあったからだと思う。

高校時代に留学にいき、日本とは全く違う世界で生活し、色んな人に出逢い、新しい自分に出会う経験ができた。大学に入ってその経験ができることが恵まれていて、望んだ誰しもが経験できるものではないと身をもって知った。金銭的な理由のみならず、コロナの影響など様々な理由で留学に行きたいけれど、いけない人を目の前で見てきたのだ。だから自分が大学での留学に行かせていただけると決まった時、どうにかその経験を伝えられないかと模索した。動画メディアによる共有なら視覚や聴覚という点で優れており、留学生活がどんなものか想像するにはうってつけだ、と考えた。しかし、自分自身が留学生であるため勉強のみならず慣れない新天地での生活に追われ、動画の投稿どころか編集の勉強すら及ばなかった。帰国して時間ができた自分はこの活動に挑戦することを決意した。いただいた奨学金のおかげで、自分の「誤算」に気づくことができ、克服してさらに目標達成できると自信が持てている。本当にありがとうございました。